

平成21年度第1回地域連絡会議

議事概要

平成21年7月31日(金) 13:00～15:00

斜里町産業会館2階大ホール

1. 開会
2. 釧路自然環境事務所長挨拶
3. 議事

議題1：科学委員会の検討経緯及び今後の予定について

環境省から「資料1-1.科学委員会の検討経過について」、資料1-2.エゾシカワーキンググループ経過報告・今後の予定」について説明。

(知床ガイド協議会)

エゾシカの密度操作実験において、シカの死体を1か月近く放置していたと聞いている。ハンターが行う狩猟の場合は、回収が義務付けられているが、密度操作実験は特別なのか。また、当初から死体は放置する計画だったのか、それとも捕獲と同時に回収する計画であったが、現場で緊急的に死体の放置を判断したのか。死体を放置することにより環境悪化は生じないのか。

(環境省)

放置を前提としているわけではない。今回は、捕獲と回収を同時に行い捕獲効率が低下した前年度の反省を踏まえ、捕獲作業と回収作業を別とし、複数回の捕獲作業の後に回収専門のチームを派遣することで対応した。冬季であったため、死体の腐敗速度が遅いと判断したが、結果的にヒグマに捕食されて回収できた量は少なかった。また、捕獲作業後速やかに回収を行うのが基本と考えているが、海況の関係等で回収船が到達できず、しばらく間があいたケースもある。鳥獣保護法に基づき対応することとなるが、死体の回収についてのエゾシカWGでの議論では物質循環を考えれば、もともと知床岬のバイオマスの一部なので放置することが望ましいとの意見も出されている。

(知床ガイド協議会)

捕獲手法が効率的ではないのではないか。今後は実施手法を含め、地元とともに検討するということがよいか。

(環境省)

捕獲にあたっては、地元両町の猟友会にも協力いただいている。捕獲方法については、大きな見直しを行っており、地元の方のご意見もきいて検討したい。

北海道から「資料 1 - 3 . 2008 年度海域管理計画定期報告書の概要」について説明。

(知床ガイド協議会)

観光船が海鳥に与える影響について調査は実施したのか。また、調査はウトロ側のみの実施か。何日間の調査を何回行ったか、どのような手法を用いたのか、誰が調査したのか等データを利用する上では重要となる。

(環境省)

観光船が海鳥の繁殖地に与える影響についても調査している。調査はあくまでウトロ側のみである。海域の定期報告書はあくまで各調査を取りまとめたものであり、海鳥の調査の詳細については環境省の報告書を参照して欲しい。

林野庁から「資料 1 - 4 . 河川工作物フォローアップ会議(仮称)について」について説明。

・質問、意見なし

議題 2 : 知床世界自然遺産地域管理計画(案)のパブリックコメント結果について

環境省から「資料 2 - 1 . 知床世界自然遺産地域管理計画(案)に対する意見公募結果」「資料 2 - 2 . 知床世界自然遺産地域管理計画(案)に対する意見一覧表」「資料 2 - 3 . 知床世界自然遺産地域管理計画新旧対照表」「資料 2 - 4 . 知床世界自然遺産地域管理計画の用語集(案)」「資料 2 - 5 . 知床世界自然遺産地域管理計画(案)地元説明会の開催結果について」について説明。

(知床ガイド協議会)

羅臼の地元説明会での指摘を真摯に考えていただき感謝する。羅臼はウトロとは自然環境が全く違う。観光に携わる関係者は地元出身者がほとんどで、小さい時から知床の自然は生活の場所であり遊び場であった。観光の仕事をはじめたいと考えた心の奥には小さいころから遊び育った素晴らしい自然と生活風景を多くの人に見てもらいたいという思いがある。その思いで管理計画をみると現実を把握しない一面だけの利用計画になっていて、納得がいかない。知床岬に立った感慨は忘れられず多くの人に体感してもらいたい。そのためルールを作成し、少数でもよいから動力船による乗り入れを許可することを再検討すべきだと思う。海況などの自然条件は厳しいため大型船では利用できない小型船のみの場所も有り、自然を利用する人間を制御しやすく、自然への負荷も抑えられる。人が入ることによって密漁・盗掘を防止するという効果もある。知床の自然は地元住民には生活の場所でもあって、気が付いたら成す術もないという状態にはしたくない。知床は人と自然が共生するよいモデルとなりえる。地元の住民と十分話し合い自然と人間の良好な生態系維

持に尽力すべき。

(環境省)

今後の予定は、専門用語の微修正を科学委員会と相談しつつ行い、その後、環境省、林野庁、文化庁、北海道の4者の決定となる。夏の後半から秋をめどに決定したい。特に利用の部分については今後地元の皆様とも十分に議論していきたい。

(事務局長)本計画案については基本的にご了解をいただいたものとして進めてよろしいか。

<異議なし、うなずく人有>

ありがとうございます。

議題3：年次報告書の作成について

環境省から「資料3-1.平成20年度 知床世界自然遺産地域年次報告書(案)」「資料3-2.関係機関における平成21年度調査計画について」「資料3-3.関係機関における平成21年度ハード事業実施計画について」「資料3-4.関係機関における平成21年度ソフト事業実施計画について」について説明。

・質問、意見なし

議題4：科学委員会等の今後のあり方について

環境省から「資料4.知床世界自然遺産地域科学委員会の今後のあり方について」について説明。

・質問、意見なし

議題5：知床世界自然遺産のシンボルマークについて

環境省から「資料5-1.「知床世界自然遺産」シンボルマークの決定について」「資料5-2.「知床世界自然遺産」シンボルマーク CIシート」「資料5-3.「知床世界自然遺産」シンボルマークの使用について(案)」について説明。

(知床ガイド協議会)

国土交通省観光庁より知床観光圏として認定された社団法人があるので、その社団法人に管理を委託し、収益を観光圏事業に生かしてはどうか。

(環境省)

両町とも相談しながら進めたい。観光圏は、遺産地域よりだいぶ範囲が広がるため、その点を考慮しつつ検討したい。

議題6：地域連絡会議等の今後の予定について

環境省から「資料6：平成21年度 地域連絡会議等の日程（予定）」について説明。

・質問、意見なし

議題7：その他

（知床ガイド協議会）

羅臼側の廃屋になりつつあるコンブ番屋の保存と利用について検討していただきたい。コンブ番屋の持ち主、地元の方からの要望がある。また、有識者、一般人、著名人、報道関係者からも健全なる利用を望む声もある。検討委員会の考えだけでなくこのような声も無視してはいけないのではないか。今年は11月まで会議がないが、良いのか。早急に検討すべき課題は多々あると思う。会議の間隔が空いてしまうと議論の熱が冷めてしまう。

（環境省）

コンブ番屋の保存については、各行政機関の制度で保存可能かどうか分からないが、先端部の利用のあり方とも関連付けて検討したい。

エゾシカのWGについては例年より開催時期を早めている。また、各会議で多くの課題が抽出されているため、それらの進捗状況も考慮し、早めに開催できるものについては早めの開催を心がけたい。また、地元の皆様との意見交換会も予定しており、これについても地元の皆様が参加しやすい時期に開催して行きたい。

（知床ガイド協議会）

地元との意見交換会は大切なことであり、時期を選ばず開催していただきたい。また、遊漁船の瀬渡しについて、自主ルールにて4か所は上陸可能と決めているが、その後検討の機会が持たれていない。今後議論の場がもたれる予定はあるのか。

（環境省）

ご指摘の内容について詳細を把握しておらず、即答できない。今後課題の整理・確認を行い、地元の方ともご相談しつつ対応したい。